

## *Iris iberica* subsp. *elegantissima*

長 岡 求

2017年の海外花卉事情調査団はアルメニアを訪問しました。黒海とカスピ海のあいだを東西に走る南コーカサス山脈の南側に位置する小さな国です。西にトルコと北はジョージア、東はアゼルバイジャン、南はアゼルバイジャンの飛び地とイランに接しています。

1980年代にはアルメニア人の人口が多いナゴルノ・カラバフがアゼルバイジャンから分離・独立し、アルメニアに併合をめざして争いが発生していて、治安が悪いようなイメージもありますが、アルメニアそのものは昔からのキリスト教国で、治安もすこぶる良い国です。それもそのはず、キリスト教を国教にした世界最初の国がこのアルメニア国なのです。人口は310万人ほど、95%は非カルケドン派のアルメニア教会の信徒で、97%がアルメニア人です。ちなみに Armenia の Ar はアーリア人の意味で、アルメニアはアーリア人の国という意味です。

かつては大アルメニア王国と呼ばれた時代があり、東トルコからイラン北西部、ジョージアなどを含む広い国土を有していました。現在の国土は九州よりもわずかに狭く、国土の90%が標高1,000mを超えていて、首都はアララト盆地に位置するエレバン(標高約1,000m)です。最高峰はアラガツ山、標高4,090mです。気候はステップ気候(B S)と亜寒帯湿潤気候(D f)で、年平均降水量318mmと雨量が少なく、それも夏に雨がすくくなります。

今回のツアーは5月20日～28日の7泊9日で実施されました。バスで移動しながら、所々でバスを停めて植物観察をしました。どこに行っても草原が広がり、その風景はちょうど霧ヶ峰のようです。それほど多様な植物があるとは見えないのですが、バスを停めるたびに新しい植物が見つかり、正味5日間で撮影した写真を整理すると280種ほどを認識することができました。ムスカリや近縁のベレバリア、キバナノアマナの仲間など球根植物が多くみられ、またアストラガルスやラティルスなどマメ科の種類が豊富で、乾燥地であることが推測されました。

表紙の写真はアヤメ科の *Iris iberica* subsp. *elegantissima* です。ツアーでは全部で5種の *Iris* とその自然交雑種1種の花をみることができました。その内訳はジャーマンアイリスの仲間(アヤメ亜属ゴゴン節)が1種、同亜属のオンコキクルス節が3種、ジュノーアイリスの仲間、スコルピリス亜属スコルピリス節が1種で、自然交雑種はポゴン節とオンコキクルス節の節間交雑種と推測されました。オンコキクルス節のアイリス類は中近東から中央アジアの乾燥したエリアに分布し、球根というよりも多肉根を発達させた根茎を有するグループです。写真のエレガントシマは首都のエレバンの北側、首都を望む高台で緩やかな傾斜の草原に自生していました。他の場所では見ることができませんでしたが、この土地には多くの個体が育っていました。日本では栽培が難しいこともあり、ほとんど普及していませんが、海外に目を向けるとオンコキクルス節のアイリスがブームになっており、日本でも栽培者が増えることに期待したいと思います。

最後に、アルメニアは生物多様性ホットスポット(生物多様性が高いにもかかわらず、人類による破壊の危機に瀕している地域)のひとつに指定されていることを帰国後に発見しました。森林が発達すると生物の多様性が拡大すると理解していましたが、霧ヶ峰のような風景が続く草原も地面の傾斜や傾斜の向き、標高の違い、降雪の多少などにより、豊かな多様性が生まれることを初めて知りました。